５．　北八ヶ岳

１）日　程

１９８４年１０月２１日（前夜発日帰り）

２）コース

茅野駅―渋ノ湯―高見石―中山峠―東天狗岳―夏沢峠―硫黄岳―赤岳鉱泉―美濃戸口―茅野駅

３）記　録

Ｄａｙ　Ｄｒｅａｍ　Ｗａｎｄｅｒｅｒ

ふと気がつくと、バスは既に停車していた。満員の夜行の疲れか、走り出して間もなく　ぐっすりと寝入ってしまったらしい。周りを見ると　皆も寝ていたらしく、緩慢な動きでバスを降りようとしている。窓ガラスを手で拭いて外を見ると、まだ曇りが取れないのかと錯覚するような、深い朝もやの渋ノ湯だった。

夢の中へ一歩踏み出すと、外気はひんやりと湿っていた。黒百合平へむかうほかの人たちと別れ、一人高見石へ。樹林の道は夜露でぬれている。しばらく歩くうちに、道に覆いかぶさる草で、ジャージはぐっしょり濡れてしまった。

ガスもいつの間にか消え、ポッカリ開けた賽の河原は、高曇りながら明るく、秋の空は締まっていた。心地よい風の中、岩から岩へ飛びながら伝い歩くのもおもしろい。遊びながら登っているうちに、再び樹林の中へ。

高見石小屋付近は人が多い。一応裏の高見石に登り、白駒池を確かめる。風が強い。なんとなく場違いな雰囲気を抜け出して一人で歩き出すと、落ち着いた気分になる。いつもの被害妄想だ。

黒百合平からの分岐を過ぎ、尾根伝いに天狗岳へ。風が強い上に、雨雲の中に入ってしまったのか、空気が濡れている。雨に降られたつもりはないのに、びしょびしょになる。こんな中を登る物好きもいないのか誰にも会わない。山頂もガスで視界はゼロだ。風が強く、じっとしていると体が冷えてきて休んでいられない。

南側の斜面は、時々吹く強い突風に、まっすぐ立っていられず歩きにくい。時々立ち止まり、風をやり過ごしながら下っていくと、ガスの中に人影らしきものが見えてきた。あまり動かないので、岩かと思いながら近づいていくと、やはり人だった。片足がなく松葉杖で歩いている。岩屑の道がとても歩きにくそうだ。突風が吹くたびに立ち止まり、バランスをとりながらやり過ごしている。段差のところでは、片手で松葉杖を二本持ち、地面に座り込み　這うようにして下っていく。遠目にチラッと見えた横顔は、辛そうにゆがんで見えた。しかし彼も自ら一人で山に来ていることを思い、自分のペースで追いつき、「こんにちは」と声をかけて追い越す。確かに辛そうではあったが「こんにちは」と答えが返ってくる。尾根を回り込むところで振り返ると、風

に向かって確かに進んでいた。

　人気のなさそうな根石山荘の前を通り、樹林の中を夏沢峠まで、そして硫黄岳の登りでまた風の中へ。硫黄岳に登りつくと、南八は晴れていた。雲に覆われた天狗岳とは対照的に、横岳、赤岳、阿弥陀岳と続く稜線は明るく、風は強いが空は高く、ところどころ青空ものぞいている。もったいない気もするが、秋空に背を向けて樹林の中の赤岳鉱泉へ。なんとなく満ち足りた穏やかな気分になり、のんびりと下っていった。

　それぞれに山登りを終えた人たちが美濃戸口へと向かってくる。柔らかな秋の日差しの中　紅葉の道を来る人たちは、それぞれの登山という夢を見終え　再び夢の出口に集まってくるように思える。自分もこのバスで今度目覚めると　日常という現実の世界に戻るのかな　などと思っているうちに、夢の出口に向かうバスの中で眠りに落ちていった。

4）コースタイム

年月日	時間		場所	備考
1984.10.21	06:55	着	渋ノ湯	朝食のパンを食べる。
	07:15	発		
	08:40	通過	高見石	
	10:00	着	中山峠	
	09:55	発		
	10:58	着	東天狗岳	
	11:10	発		
	11:30	通過	根石山荘	
	11:50	着	夏沢峠	昼食をとる。
	12:20	発		
	13:00	通過	硫黄岳	写真を撮る。
	13:15	通過	赤岩の頭	
	13:58	着	赤岳鉱泉	
	14:15	発		
	15:50	着	美濃戸口	